

熊年の終りて馬の年来たる

八百万のひとつの神のクリスマス

原初より熊は神なり祀るべし

切なくて熊の一句に呻吟す

山よりもさらに眠りの深き村

戦争がじわと焚火の輪の中へ

難病に耐へて迎へる大晦日

死んで尚母が生きてる年の暮

没の句の極となりぬ古日記

ラグビーや応援団は勝つてゐた

(福岡市) 釋

(東京都世田谷区) 野上 卓

(横浜市) 正谷 民夫

(川崎市) 神村 謙二

(栃木県壬生町) あらゐひとし

(横浜市) 御殿 兼伍

(米原市) 米澤 一錢

(三郷市) 木村 義照

(長崎市) 下道 信雄

(東京都府中市) 志村 耕一

元旦に米寿と喜寿の仲直り

年用意昭和の歌に背を押され

白寿翁追ひて大逝く三日かな

着服れてA-Iの世に目を見張る

卒寿まで生きるか五年日記買ふ

老いと云ふ曖昧に生き冬に入る

元旦や暦も我も新たなり

死ぬまで読む本並べ年の暮

木の葉降る孤老ばかりの公園に

七草や海辺の暮らし磯菜摘む

(四日市市) 小谷 恒夫

(越谷市) 金子 宗彰

(宇都宮市) 五十嵐藤重

(仙台市) 柿坂 伸子

(松本市) 笠井 津伍

(高槻市) 山岡 猛

(岩見沢市) 村岸 基量

(東京都府中市) 古川 泰

(東京都杉並区) 漆川 夕

(高知市) 戸梶 優子

生きてゐる限り未来の日記買ふ

左義長や闇に火の粉の江戸小紋

国会は石のかたまり寒椿

伊勢海老の殻に伊勢海老盛られけり

星空のそのまま降りし大聖樹

写楽めく顔を探して初詣

数え日や会えなくなりし人の数

難しき曾孫の名前お年玉

冬至湯や太陽系を棲家とし

朝日俳壇への投句初便り

(宇都部市) 為近 正子

(豊中市) 天為 無法

(京田辺市) 加藤 草児

(松原市) たろりすむ

(高松市) 信里由美子

(市川市) をがはまなぶ

(北杜市) 青木 功行

(合志市) 坂田美代子

(さいたま市) 豊田 康

(広島市) 浜村 匡子

俳句とは生きる轍や去年今年

ほろ酔ひの頬へ大つこもりの夜気

年新た世界に向けてお辞儀する

人口減国の勢ひ減る寒さ

遠近のおおんごんがん京の除夜

ああそれも今年のことか年忘

除雪車の一筆書きの軌跡かな

釜本尾崎長嶋近きし年惜しむ

小正月おもわぬ人の安来節

去年の息吐きて力の溢れけり

(奈良県田原本町) 小林 博明

(高山市) 大下 雅子

(土岐市) 中野 和彦

(仙台市) 柿坂 伸子

(高槻市) 若林眞一郎

(多摩市) 田中 久幸

(天童市) 高橋ゆり子

(神戸市) たなかしらほ

(新座市) 丸山 巖子

(嘉麻市) 松井 春光

歌壇 俳壇

第42回 朝日歌壇賞

2025年の入選歌から選者4人が1首ずつ選びました。賞状と記念品が受賞者に贈られます。



永田和宏 選

瘡に臥す妻の細髪洗ひおきて我は悲しく勃起せしなり

(狭山市) 奥園 道昭



川野里子 選

「生きるため死体の上を歩いたの」 ばあちゃん僕が出会えた理由

(筑後市) 近藤 史紀



佐佐木幸綱 選

牧場の牛の爪切り依頼せし獣医ペットの山羊連れて来る

(沼津市) 石川 義倫



高野公彦 選

安青錦物の見事な「内無双」母国は戦火に包まれながら

(川崎市) 宇藤 順子

〈評〉 病む髪を洗いつつ、思わぬ性の衝動に狼狽える。深き愛の噴出を恥じる莫れ。

〈評〉 壮絶な祖母の言葉と、それを背負い、自らに引き寄せた力の均衡が見事。

〈評〉 ペットの山羊をつれて現れた獣医さん。彼の人柄が見えるような一首です。

〈評〉 母国が戦火の中にあるのに、日本に来て活躍する安青錦への称賛と同情。

☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メディアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿は無地のほか1枚に1作品、未発表の自作のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。